

2-11 展示を企画するには？

世界天文年 2009 をきっかけに、多くの人に宇宙の魅力を紹介するため、天文に関する展示を身近な場所で行ってみたいかがでしょうか。学校の廊下や図書室の前でのミニパネル展をしたいという場合、あるいは生涯学習施設でも天文には詳しいスタッフがいないて・・・という場合でも、気軽に天文展示を企画できる方法はいろいろとあります。

ステップ 1 世界天文年 2009 のウェブコンテンツを活用する

世界天文年 2009 日本委員会のウェブサイトには、さまざまな情報が掲載されています。

たとえば、Web 連載まんが「ガリレオくんと仲間たち」では、マスコットキャラクターのガリレオくんが展開するストーリーとともに、星空へいざなう解説やガリレオの発見にちなんだ話などが併記されています。

このコンテンツについては、「世界天文年 2009 キャラクターマーク、キャラクターの使用に関する規約」に従い利用が可能です。教育を目的とした利用の範囲では原則として届け出のみで利用できます。

うまく使えば、毎月コンテンツが追加されるたびに天文解説の紹介パネル展示を作り、更新していくといったことも可能になるでしょう。これで、立派な「世界天文年 2009 関連展示」ができあがります。

郡山市ふれあい科学館が作成した「ガリレオくんと仲間たち」を利用した天文解説展示パネルの例。



ステップ 2 借りる「天文展示」

映像資料や展示物を貸し出すなどして、天文に関する展示をサポートしている機関や団体があります。これらを活用して世界天文年にちなんだ展示計画を立ててみたいかがでしょうか。

ただしいつでも誰でも借りられるというわけではなく、貸出には団体への加盟が必要な場合があります。また、時期も打診の上での決定となりますので、早めの計画と打診が必要です。

現在はインターネット上での情報公開が非常に盛んな時代になりました。画像と解説文をうまく組み合わせ、展示企画まで行うことも可能なくらい、インターネット上のコンテンツは充実していますので、「天文ネットサーフィン」をしてみると、新たな発見とアイデアも浮かぶことでしょう。



利用可能な天体写真を活用した展示例。天体写真と解説文を組み合わせ、さまざまなアプローチでの展示が可能です。また、写真と文章を組み合わせた、パネルに仕立てた展示も最近では簡単にできます。

次のページに展示素材貸出の例を掲載しました。

展示素材貸出の例

研究機関や業界団体による活動支援を積極的に活用しましょう。

宇宙開発・探査のプロジェクトページを見る

宇宙探査関係では、各ウェブサイト上にポスターやリーフレットのデータをはじめ、探査の結果などの情報や、探査機のペーパークラフトなどもありますので、組み合わせればミニ展示を企画することが可能です。また、展示貸し出しなども行われています。使用可能な画像を用いてポスターを作成すれば、立派な展示パネルとなります。

例： 宇宙航空研究開発機構 広報サービス（「展示品の貸出」「映像ソフトの貸出」など）

http://www.jaxa.jp/pr/index_j.html

太陽観測衛星「ひので」アメニティグッズ

<http://honode.nao.ac.jp/amenity/>

月周回衛星「かぐや」ダウンロードページ

http://www.selene.jaxa.jp/ja/document/document_j.htm

組織による活動支援を調べる

協会・協議会などが展示の支援を行っている場合があります。加盟館に対する活動支援です。施設関係の方は改めて見直してみるとよいでしょう。

日本プラネタリウム協議会

世界天文年に合わせ、会員に向けての映像素材等の提供やキャンペーンなどが行われています。

全国科学館連携協議会

展示等の貸与・贈与、巡回展の斡旋が行われています。

例）巡回展示「毛利宇宙飛行士の部屋」、「巡回パネル展」の貸出、調整。

天文関係では「月のふしぎ」「太陽のふしぎ」などがあり、パネルのほか、実験装置などが付属するものもあります。

ステップ3 本格的に展示を企画するために

科学館などが本格的な展示企画を構想する場合のポイントをご紹介します。

ストーリーのある展示であること

主題とストーリー（流れ）は、展示の基本として第一に考えるべきことです。主題がはっきりしていることや、論文や物語を作るときと同じく「起承転結」の筋道を立てて展示プランを考えていくことが大切です。

展示物とその解説を組み合わせ作り上げていきますので、いわば「立体紙芝居」を作ることをイメージして進めるとよいでしょう。

「展示物を並べる」プラスアルファを

最近の傾向は、五感で楽しむ展示、見学者参加型の展示、そしてコミュニケーションを重要視した展示がおおむね好評であるということです。

コミュニケーションを重要視、とは、たとえば館職員、展示解説員、ボランティア、そして見学者どうしが、展示物を素材としていろいろなコミュニケーションをすることで理解や感動を深める手法を重視する、ということです。展示にちょっとした工夫を加えるだけで、見学者の楽しみ方を格段に上げられることがあります。

地域密着型の展示を検討すること

遠いところのお話だけで展開するより、地元の人やモノを紹介すると親近感がわくものです。天文分野だとそうはいかないという先入観を持ってしまいかもしれませんが、例えば地元につながる星に関する民話・伝承、地元出身の天文研究者、地元の天文関連施設の紹介などは、比較的取り上げやすい題材でしょう。

また、地元のアマチュア天文家や天文愛好家団体、学校天文部等とのコラボレーションが可能なら、施設・見学者・地域が三位一体となった企画の展開ができます。これは、相互交流を深めたり新しいコラボレーションが生まれたりと、うれしい副産物も誕生する可能性がふくらみます。